

2013年度 関西学院 聖和幼稚園 学校評価を終えて

聖和幼稚園は、子どもを中心に据えたキリスト教主義教育の幼稚園として123年の歴史を歩んできました。その中で、学校法人関西学院との合併によって、より地域の園・子どもの園としての学校（幼稚園）を目指し、精緻な学校評価に努めてきました。そこで、昨年度に引き続き「キリスト教主義教育」を評価項目に選び、聖和幼稚園の保育を省察致しました。また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導（保育内容）」、子どもたちの安心な園生活を考え「安全管理（新規）」を新たに加え、昨今、保護者からのニーズが高い「子育て支援」を設定し、重点項目には「預かり保育」を設定しました。

本年度も継続して丁寧な振り返りをするために、保護者、教員のアンケート調査と客観性を持たせるために4年前から導入した教育学部教員、聖和短期大学教員、初等部校長、評価情報分析室副室長による「第三者評価／学校関係者評価」を今年度も実施しました。そこで、評価者の皆様による保育実践の参観、園長との懇談（保育内容・過去の評価への対応の確認）も行い、聖和幼稚園の教育理念・教育思想に対するより深い理解をしていただくことができたと思っております。

結果、「キリスト教主義教育」については、学校評価を実施して以来、継続して高い評価を得ております。今年度は、ここ数年継続している公開保育を対象を拡げて、近隣の公私立の幼稚園・保育所の保育者及び西宮市から「子育て総合センター」の指導員、近隣小学校の教諭にも参観してもらい、保育後には振り返りの研修も行いました。このように地域の教育・保育関係者に観てもらい、聖和幼稚園のキリスト教教育を客観視することにより、充実した保育研鑽の機会を得ることができました。このことも高い評価を得ることに繋がったと認識しています。次年度も今回の高評価に甘んじることなく、研修・研究の時間を大事にしたいと考えております。そして、この他に「教育課程・指導」「安全管理」「子育て支援」「預かり保育」においても高い評価が得られています。ただし、「安全管理」などは、まだまだ課題を有します。「子育て支援」についても時とともに求められるものが変容してきていることを認識して、適宜適切な対応を考えていく所存です。

以上、これら評価されたことだけにとどまらず、小さな課題から丁寧に取り組み、保護者の皆様、学校関係者、地域の方々とともに連携しながらより良い学校・幼稚園づくりを進めてまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2014年3月28日

関西学院 聖和幼稚園
園長 出原 大

学校評価シート

【キリスト教主義教育】

現状の説明

聖和幼稚園は、下記の三つの教育方針を柱にしてキリスト教保育を行っている。

- ・子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって啓示された神様の愛を感謝と喜びをもって受け止め、自らがかけがえのない存在であることを知る。
- ・子ども自身が、何事にも意欲的、主体的に取り組む自律的な精神を培うとともに、お互いの個性の相違や多様性を認めながらともに育ちあうことのできる思いやりの心を育む。
- ・神様の創造された自然の中でいろいろな体験を通し、豊かに情操を涵養する。

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践においては、神から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。教諭も日々、キリスト教保育の理念をもって実践に努めている。

今年度も「神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに『まなざし』を向けて保育する」ことに気をつけながら、今年度は、特に、キリスト教主義教育の大切な柱の一つである「子どもたち一人ひとりのあるがままを受け止める」視点で、①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える援助を行っている。

保育の中で大切に位置付けている礼拝は、日曜日に礼拝を行い、日々の保育でも形式にこだわらず（話し合いの中での祈り、食前の祈りなどを含め）礼拝を行っている。また、子どもたちは教諭とともに、友だちとともに、喜びを持って祈ることを大切にしている。

聖和幼稚園では、毎朝、教職員が心を合わせ祈りの時を持って保育、業務を始めている。そして、保育活動を担う教諭は、教師会でのキリスト教保育の勉強会、また、キリスト教保育の研修会にも参加している。

保護者に対しては、入園前の新入園児保護者会、新年度はじめの保護者会総会でキリスト教保育についての話をしている。また、クリスマス前には、「アドベント保護者会」と称する礼拝・講演会を行っている。その他のキリスト教に関する行事（母の日、花の日、収穫感謝礼拝など）は園通信にて、由来、意味、大切にしていることなどキリスト教における人間観、子ども観とともに伝えている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

キリスト教主義教育（キリスト教保育）の実践は、幼稚園全体としてキリスト教主義教育（キリスト教保育）の理念の共有、そして実践が重要である。

今年度も、具体的には『神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに「まなざし」を向けて保育する』ことを特に気をつけながら保育を行っている。そして、日々保育を①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える保育を行っている。

「キリスト教保育の理念の共有」の教諭のアンケートは 100%肯定的に、キリスト教保育の根幹である「一人ひとり大切にし、愛情を感じられる教育の実践」も 100%肯定的に回答している。教諭は、キリスト教保育の理念を共有し、一人ひとりの子どもをしっかりと受け止めて保育していることの自負が数値に表れている。

保護者は「キリスト教保育の考え方の共有」では 98%の保護者が肯定的に回答し「キリスト教保育で大切にしていること」を理解していただいていると思われる。また、「子ども一人ひとりを受け止めて保育をしている」では 97%の保護者が肯定的に回答しており、キリスト教保育の実践も評価できると考える。

改善の具体的方策

キリスト教主義教育に関しては、今年度も教諭も保護者も高い評価をしている。しかし、現状に満足してはいけない。

「キリスト教保育の理念の共有」は、評価・分析から判断して、今まで同様、キリスト教保育の理念の共有ができるように、教諭に対しては、キリスト教保育の研修会に参加すること、日常の勤務においても理念の共有、キリスト教文化に触れる機会を持っていきたいと思う。また、保護者に関しては、毎年新たな気持ちで、講演会、手紙等からキリスト教保育の大切にしていくことを伝えるようにしていく。

「一人ひとりを受け止めて保育する」ことは、日々の保育の中で、一人ひとりに目を向け、あるがままを受け止め、①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える保育をおこなっているかどうか、省察し、自己研鑽をしていく。

第三者評価／学校関係者評価

○保育参観、行事（運動会・クリスマスなど）参観を通して、キリスト教の「人間教育」の視点に立った理念を共有し合っている教職員のチームによる保育実践力が、子どもたちが人間として豊かに育つために「神の創造された自然・人を愛することの大切さ」を学び合い、育ち合える教育的環境を創り出していると感じます。

毎年、保護者から「一人ひとりを大切に作る保育」が実践において高く評価を得ている根本には、子どもたちの人間観の育ちに繋がっている「人的環境」としての教職員同士が、互いの個性を尊重し認め合い、互いの仕事上の喜び、葛藤等を理解し合い、協働的に成長し合える信頼関係づくりの重要性を認識して、日々、園長、副園長、主任、教諭、職員の立場から意識的に努めている実態があると思われます。教職員と子どもたち・保護者の関係のあり方とともに、この観点も、評価事項として明確に記述されてもよいのではないかと考えられます。

- 日々、丁寧で明確な実践が高い肯定的回答になっていると思われます。数字の意味が十分に理解できます。
- 園児が受けるキリスト教主義保育の良さを、家庭にどう広げていくか。情報社会をとらえ、スピーディで受け取りやすい発信方法が望まれます。
- キリスト教主義教育に関しては、教諭も保護者も高い評価を与えているということは明白です。しかし、そのことに満足せず、さらに新たな問題点を発見し、それらの改善のための具体的な方策が追求されんとしている点は大いに評価されるべきです。そのような営みの継続が質の高い教育を実現するものと考えます。
- キリスト教主義教育を実践するために、具体的な教育観や援助のあり方を提示され、それに基づいて保育者が一人一人の子どもに対して愛情深く丁寧にかかわっておられること、また、3年間を通してプログラムされた日曜礼拝の積み重ねによって、子どもの心の成長を目指されていることが大変評価できます。
- 今年度の教育の目標が達成されたかどうかについて、「省察し、自己研鑽をしていく」とありますが、具体的なエビデンスが提示されるような方法を検討されるとよりよい自己評価につながると思われます。

2013 年度学校評価

学校評価シート

【教育課程・指導】

現状の説明

聖和幼稚園はキリスト教保育を実践している。

教育方針は、「キリスト教主義教育」の項目でも触れたとおり、聖和幼稚園はキリスト教保育を柱にして教育課程を作成し指導計画を立てている。そして、月案、週案、日々子どもの育ちを把握し子どもの姿に応じて日案を作成し保育実践をしている。週案では一週間を振り返り子ども一人ひとりの姿を記録し、省察している。また、行事に関しては、「その行事が子どもたちにとってどうなのか」「なぜ、その行事を行うのか」等、理念、内容の問い直しから話し合っている。

教師会だけではなく、日々の教諭同士の話し合いでは、子どもの育ち、援助について丁寧に話し合いを行っている。

保護者には、月の保育目標、活動内容を、毎月発行する園通信にて伝えている。

聖和幼稚園の保育内容は一人ひとりのあるがままを受け止め、育ちを大事に考え、遊びを中心とした、ゆったりとした保育計画を立てている。そして、外遊びを重要と考えており、その機会と環境を整えている。

幼児教育は、環境による教育といわれる。教諭は、人的（自分自身）、物的環境について、日々、子どもの姿と自分自身の保育のあり方を省察している。

保育環境整備において、教諭は、子どもの発達に応じた、環境のあり方、遊具・教材についての研究を行い、保育環境を整え、日々の保育に活かしている。そして、園児の育ちに応じて必要である遊具・教材は教師会で検討し購入している。また、遊具は使用不可になった場合も随時入れ替えを行い、教材が不足した場合も随時補充を行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

今年度も「神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに『まなざし』を向けて保育する」ことに特に気をつけながら、「自主的に育つ」「ともに育つ」「喜びを持って育つ」に加えて、「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく、「よくここまで育った」と観る教育観で「達成感」「充実感」を味わえる心を支える保育を行っているかをポイントとして保育を省察している。

また、教諭は、保育理念、保育内容に関する研修会に出かけ保育の専門性を高めている。

そのことが功を奏して、本年度も子どもたち一人ひとりの発達に応じて、園生活の中で自主的、意欲的に活動する姿が確認できた。また、教諭のアンケート結果からも保育理念から保育計画を立案し、子どもの意欲、主体性を育む保育内容を実践していることが分かる。

物的環境においては、教諭が意識を持ち、教材・園庭環境研究を行って

いる。そのことが保育環境の充実につながっていると考えられる。
これらについて、アンケート結果からもほとんどの保護者が肯定的に回答している。

改善の具体的方策

保護者、教諭も高い評価をしていることから、現在行っていることを継続し、深めていく姿勢が必要である。

来年度は、保育日、保育時間を変更する。日曜日が休園日となり、日曜礼拝を土曜日に行うこと、保育時間が2時までの保育日が週4日になる。来年度に向けて、教育課程、指導計画を具体的に立案していく。

保育の専門性を高めるために、来年度は日本保育学会においても5つの発表を計画している。研修会、研究会、学会等を通して、教諭一人ひとりが研鑽し、保育の専門性を高め、園全体の保育の質を高めていきたいと考えている。

第三者評価／学校関係者評価

- 保育参観から、「一人ひとりの子ども理解」を基盤に、子どもたちが自主的、意欲的に関わる教育的環境、教材には熱意をもって吟味検討していることが、随所に捉えられます。例えば、子どもたちの遊びの内容、動線を観察しながら再検討されたと思われる園庭の木製遊具、園庭解放に参加する子どもたちの発達等からも安全面を考慮して調整されていると思われる遊具など、どの園でも固定化しがちな園庭の環境を教材研究的視点から再構成に取り組んでいることは、教育現場として高く評価できると思います。
- 教諭の研修への熱心な参加活動、課題意識をもって研鑽を積んでいることは、さらなる保育への意欲を高め、どの保育の瞬間にも省察の重要性の自覚をもって保育に臨む、向上心の高い教諭の育成につながっていると思われまます。
今後、この研究的視点から、さらに、「一人ひとりの発達に応じた」の“発達の観点”をどのように捉えるのか、育ちを支援する教育内容、「子どもたちが育ち合う」とは、一人と他者とが関わり育ち合う経験の場等について、具体的な事例を通して探究していかれることを期待しています。
- 一人ひとりの子どもの表情から、教育課程の充実が伝わってきます。指導においても、指標が教員の中で共通認識され共有実践されています。一体感があります。
今後、教育課程・指導の幼・小・中・高の連携を、関西学院としてさらに深められることを期待します。
- 保護者からも教諭からも高い評価を与えられていることは、幼稚園の教育が良好に行われていることを表しています。今後の問題として、研修会、研究会、学会などを通じて行われている教諭の方々の研鑽の成果を具体的な形で活用することが望まれます。
- 行事は子どもにとって楽しいことはもとより、彼らの心身を豊かにし、

文化や伝統を伝えるのに大切な役割を果たしています。行事を通して子どもに何を伝え何を育てるかが議論されていることは評価できます。

- 保育室には、子どもが意欲的に自分の活動に取り組めるように様々な教材が常時準備されており、保育者も個々の活動に対して細やかな援助を行っておられることが評価できます。一方で、保護者の中にはごく少数ではあるが、「一人ひとりを受け止めて保育をしている」と感じられていない方もおられるので、そのことも検討されることを望みます。
- 学会発表等の研究によって、現在の保育を客観的にとらえ直し課題を発見することが新たな教育目標の設定につながり、保育の質がますます高められるよう期待します。

2013 年度学校評価

学校評価シート

【安全管理】

現状の説明

今年度、改めて日々保育の場合、大災害の場合等を想定して、安全管理を直した。

保護者には2学期の保護者会で説明し、3学期に園のしおりとしてマニュアルを配布している。

○事故や緊急事態発生時の適切な対応

① 緊急通報装置の設置

職員室とホールに兵庫県警と直通の110番自動ダイヤル装置（県警ホットライン）を設置している。万が一の場合は、この非常ボタンを押すことにより、直接兵庫県警に異常を知らせることができる。また、通話・連絡ができるようになっている。

※非常ボタンを押すといかなる場合でも警察が駆けつける仕組みになっている。

② 火災報知機、消火器等の設置

消防関係法令に準じて火災報知機、消火器等を設置している。

※これらの機器が正常に稼働するか定期的に点検も行っている。

③ 避難訓練

地震、火災の避難訓練を定期的に行っている。

※火災を想定しての実施は1学期、地震を想定しての実施は3学期。

④ 内線電話の設置

各保育室に内線電話を設置し、緊急の連絡も取れる体制をとっている。

⑤ 館内放送設備の設置

各保育室、デッキ、ホール等幼稚園内に一斉放送できるようにしている。

⑥ 防犯カメラの設置

園内に防犯・監視カメラ3台を設置し、記録を保存している。職員室のモニターで常時確認できる。不審者による犯罪の抑止力にも役立っている。

⑦ 警備員の巡回

関西学院西宮聖和キャンパスの警備員が、幼稚園も一日数回巡回警備している。警備員の巡回は不審者による犯罪の抑止力にもなっている。

⑧ AEDの設置

看護室に園児にも対応できるAEDを設置している。

※使用に関しては、園長・副園長をはじめ、教諭もAED使用における講習を受けている。

⑨ 西宮聖和キャンパス常駐の看護師との連携

必要に応じて対応できる体制・連携をとっている。

⑩ 「特別警報」「警報」発表時における保育について

・朝7時から登園前までに、西宮市に「特別警報」が発表された場合は、幼稚園は臨時休園とする。

※臨時休園の場合は、電話で各クラス連絡網を使って、各ご家庭にご連絡

をする。

また、同時にようちえんネット（web での連絡網）にて連絡事項を同時配信する。

・朝 7 時から登園前までに、西宮市に「警報」（大雨・洪水・暴風雨・暴風・大雪・津波）が発表された場合は、幼稚園は臨時休園とする。

※臨時休園の場合は、電話で各クラス連絡網を使って、各ご家庭に連絡する。

また、同時にようちえんネットにて連絡事項を同時配信する。

・登園後、保育中に「特別警報」、「警報」が出た場合（預かり保育利用の場合も含む）

・保育は終了とする。

・保護者には幼稚園より、ようちえんネット、クラス連絡網で「緊急帰宅する事由」を連絡して、通園路の安全を確認してお迎えに来てもらう。

・園児は、保護者がお迎えに来るまで保育を行う。

・その他、お子様の安全を考慮して休園になる場合もある。

⑩保育中に地震などの災害が起こった場合の対応について

・最優先で、園児の安全を確保する。

・保護者には、安全を確認してから迎えに来てもらう。

・保護者の方が迎えに来られるまで、園児は幼稚園で保育を行う。

※災害緊急時においても、基本的に電話で各クラス連絡網を使って各家庭に連絡する。また、同時にようちえんネットにて連絡事項を同時配信する。

※緊急時の食糧、毛布等の備蓄品は、関西学院で園児分・教諭分の確保をしている。

緊急事態が発生した場合は園児が適切に行動できるように、日常生活から教諭の話を聞いて判断・行動できるように指導している。

火災、地震を想定したマニュアルに応じて避難訓練を行っており、教諭は避難訓練の想定だけでなく、様々な状況を日常から想定して、臨機応変に対応できるようにしている。

○園内環境の安全点検

① 幼稚園内の安全確認

毎日、保育開始前に保育者が（3つのグループに分かれて）、園庭の倉庫、小屋、裏庭などを見て回り、安全点検を行っている。異常を認めた場合はすぐに対応している。

② 登園、降園時の安全確保

登降園の時間帯は教諭（主に園長・副園長）が 1 名立ち、安全を確認しながら子どもたちの登園を見守っている。

○教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルに応じた対応

「火災」、「地震」を想定した避難訓練をマニュアルに応じて役割を決めて行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

今年度、改めて安全管理を見直した。避難訓練の教師会において、危険な箇所を改めて教諭が話し合い、確認を行った。教師会の内容からも教諭一人ひとりの危機管理意識が高まっていると考えられる。また、幼稚園の危険箇所を図面に色で示し、具体的に何が危険なのか表記したものを職員室に貼ってある。また、気づいたことは随時書き加えている。そのような取り組みが、アンケート結果から、教諭全員が肯定的な回答をしていることに表れていると考えられる。

また、安全管理に関するすべての項目で96%以上の保護者が、肯定的な回答をしていることから、一定の信頼を得ているといえる。

改善の具体的方策

○事故や緊急事態発生時の適切な対応

聖和幼稚園では、今後も危機管理意識を高めて備えていきたいと考えている。火災・地震を想定した避難訓練を実施し、また、教職員自身が、様々な緊急事態を想定し、どのように行動すべきなのかを教師会で話し合い、確認を行うようにする。

○園内環境の安全点検

今後も安全を第一に考えている意識をさらに高めて、安全な環境の保持に努めていく。危険箇所が見つかった場合は、速やかに対応できるように聖和キャンパス事務室と連携を密にしておく。

○教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成

今年度は幼稚園の危機管理マニュアルを見直し、検討した。大きな災害が起こった場合は、聖和キャンパス事務室、上ヶ原キャンパスにある法人本部との連携が必要である。

第三者評価／学校関係者評価

○保育中での安全、危機管理においては、教職員の危機管理意識が様々な具体的場面を想定して対応力の向上に努めていることが評価できると思います。特に、日常的な園生活の場の設備、園庭の固定遊具などの点検修理は、日々の子どもの安全な遊び場の保障として重要ですが、怪我につながりそうな木製の亀裂面や、ボルトの状態などの修理が丁寧になされており、管理職のみならず、保育開始前の教諭全員での園庭の見回りなどの習慣的な積み重ねが生かされていると思われまます。

○長きにわたり聖和幼稚園が豊かに整えられてきた校舎や環境が、園児を育て人格を守っているかのようなのである。動線も安全を考え工夫が見られます。その中でも、幼き子ゆえに想定を超える事案が生じることがある

でしょう。安全に完全はありません。マニュアルを越えた危機管理意識の持続が、安全への最大の力となります。

- 種々の努力が行われていることは大いに評価できます。リスクの大きさは、被害の大きさと発生確率の積として表されます。この2つの要因を小さくすることによってリスクを小さくすることが可能です。ただし、発生の確率は所与のものとそうでないものがあります。その切り分けを基礎として、改善の方策を整理するとより分かりやすくなるのではないのでしょうか。
- 安全管理について教職員間での危機管理意識の共有をもとに再検討され、目標としてあげられている緊急時のマニュアルを作成されたことが評価できます。しかしまだ不安をもたれている保護者もおられるようなので、今後は保護者への周知と避難訓練の充実が望まれます。
- 保育室への不審者侵入等についての具体的な対応については、どのような対策をとっておられるのでしょうか。(警察署による講習等)

2013年度学校評価

学校評価シート

【子育て支援】

現状の説明

- 子どものふさわしい遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。
- ・幼稚園児に関しては保育日（日曜日は除く）の保育後から17時まで園庭開放を行い、保護者とともに子どもたちが遊べるようにしている。また、春休み、夏休み、冬休みの長期休暇に関しても日にちを決め、9時から17時まで行っている。
 - ・地域の未就園児、地域の子どもたちに関しては、保育を行っている日（日曜日、行事等を行っている日は除く）の8時30分から17時まで、園庭開放を行っている。
 - ・以下に今年度の在園児以外の園庭開放利用者集計表を示す。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
未就園児	56	47	31	21	23	73	78	15	11	355
小学生	139	187	160	44	21	93	135	155	130	1064
	195	234	191	65	44	166	213	170	141	1419

- ・在園児は、保育後、家庭の事情に合わせて、園庭に残って遊んでいる。

○子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。

・聖和幼稚園では、登降園時保護者が送迎をすることになっている。教諭と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっており（登園時は連絡事項程度）、教諭はこの時間に保育中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子について尋ねたりと、保護者と子育て・教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、より良い子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。また、必要な場合は家庭に訪問して相談を受けることも行った。

・保護者からの申し入れがあれば、担任、補助教諭、園長、副園長と子育て・発達相談ができる体制にしている。

・発達相談においては、専門的な視点で相談できる心理士に指導をお願いしており、受付に「子育て相談箱」を設置して、保護者からの希望があれば園を仲介して個別相談することが可能になっている（心理士は月4回以上来園）。今年度、12月までの相談件数は、11件である。

評価・分析（アンケート結果を含む）

- 子どもの遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。

園庭開放の利用者数から考えると、地域に根付いた幼稚園、子どもの園が定着してきていると考えられる。また、アンケート結果が、教諭全員、保護者の97%が肯定的な回答していることから園庭開放が定着してきていると判断できる。

小学生が園庭開放を利用する時は、最低限ルールの下でしているが、危険な遊び方をしたり、おやつを食べたり、デジタルゲームをするなど少々の問題もある。そのときは、「なぜいけないか」を問いかけながら、教育の機会として自分で考えるように対応している。
- 子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。

教諭全員、保護者の92%以上が肯定的な回答をしていることは、一定の評価ができる。保護者の子どものことについての悩み、相談は、一人ひとりしっかりと受け止めることが重要である。否定的な回答をしている保護者もいるので、その点は努力していくことが必要である。

改善の具体的方策

- 子どもの遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。

小学生の園庭開放の問題は、地域社会の幼稚園で子どもを育てる視点で、今まで同様に対応していく。
- 子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。

今後も、保護者が子育ての悩み、発達の相談がしやすい雰囲気幼稚園が作り出していく努力をする。

第三者評価／学校関係者評価

- 現状の記述にはありませんが、保護者の依頼で園庭開放、学童保育を行っている子育て支援の活動の方針にも「キリスト教保育の理念、子ども観」に基づき、特に、「子ども育ちの支援」としての環境、活動内容を計画し、地域の中でともに育つ子どもへの支援活動を行っていることから、多くの子どもたちが積極的に参加を望んでいる場になっていると思われまます。

今後も、聖和幼稚園ならではの「子どもの育ち支援によって保護者支援がより深まる子育て支援のあり方を」継続していただきたいと思います。
- 何度かの保育参観を通して、発達相談の臨床心理士の先生が、月に4回のみならず、諸行事においても、長時間子どもたちの姿を見守りながら、成長、変化を捉えられていることから、教諭には多面的な子ども理解の指導助言が得られるという教諭支援の存在として、園との信頼関係が築かれ、実質的な発達相談の体制が充実していると感じられました。

地域に開いた子育て支援の園の役割として、このような極め細やかな支

- 援の実際を伝えて、啓発（※評価者の先生のご意向もありますので、そのままでも）の方法にも一工夫あればよいのではないかと思います。
- 保育後の園庭開放は、地域社会にとって大きな恩恵でしょう。また、聖和幼稚園にとっても意義深いものです。園の「開かれた明るさ」をここにも感じることができます。
 - 発達相談は個々のケース・バイ・ケースに展開しやすい傾向を持ちますが、聖和幼稚園としてどう受け止め包み込んでいくか、さらなる課題です。
 - 保育後の園庭開放に関しては、多くの利用者があり、教諭および保護者から高い評価を得ていることが明らかになっています。
園庭の開放の態様および各種の相談を受けられるような体制の整備と追求すべき課題が明示されていますので、今後は改善のための一層の努力が為されることが期待されます。
 - すばらしい遊び環境である園庭を園児や地域の子どもに解放されていることは、遊び場や安全の問題から戸外における仲間との遊びが困難な今日の子どもにとって有意義であり、幼稚園の資源の有効な利用としても大変評価できます。小学生に対しても教育的な配慮のもとに、前向きに対応されています。
 - 子育てや子どもの発達等に関する相談が受けやすくなる体制（時間、場所等）や必要な配慮について十分に検討され、子育て支援にいっそう生かされるよう期待します。

2013 年度学校評価

学校評価シート(重点的な課題)

【預かり保育】

重点的に改善に取り組んだ課題

- 預かり保育の保育内容を検討する。
- 預かり保育の教育目標が達成できるように、預かり保育の保育者の体制を整える。

具体的な取り組み内容

- 昨年度までは、通常保育で使用していた保育室を預かり保育の部屋としても使用していたが、今年度より、隣接する大学院棟1階に預かり保育専用の保育室（以前保育室として使用した部屋）を確保した。また、保育用の机、椅子、棚、遊具等を購入し、保育内容が充実するように物的環境を整えた。
- 1学期は預かり保育専任の教諭1名、補助教諭3名が担当、2学期の中頃からは預かり保育専任の教諭2名、補助教諭3名が担当した。さらに、人数に応じて（子ども15名に保育者1名以上が保育にあたる体制にしている）補助の教諭が入るようにしている。特に、外遊びの時は子ども10人に保育者1名以上が保育にあたる体制にして人的環境を手厚くした。
- 夏休みの預かり保育の体制は、利用を希望する日を事前に調査し体制を整えた。利用者が多かったため、保育者全員が夏休み中の預かり保育を担当して援助体制を整えた。

取り組み内容に関する評価・分析

- 預かり保育は、試行期を含め5年目である。保育の流れ、保育内容も年度毎に検討をしているので、より良い保育内容になっていると考えられる。また、物的環境もより良くなった。保育者のアンケートも全員が肯定的な回答をしている。
- 預かり保育の人的環境を手厚くしたことで、一人ひとりに丁寧に関わることができた。
- 保育内容は95%近くの保護者が肯定的に回答している。これは、お迎えの時の子どもの様子、自宅での子どもとの会話等から判断していると考えられる。預かり保育は、お迎えの時間がまちまちであり、他の子どもを保育している時に保育者が対応しなければならない。その為、預かり保育における連携の丁寧さが求められる。

促進させる方策、改善に向けた方策

- 保育内容は、今までと同様に、新入園・進級当初、通常、春休み、夏休み、冬休みと子どもたちの育ち、時期等に気をつけて検討していく。
- 次年度も今年度同様、一人ひとりに援助が行き届くために人員配置を手厚くすることが求められる。
- 春休み、夏休み、冬休みの長期休暇中の預かり保育は、利用者の人数が多い場合があり、その体制に苦慮している。長期休暇中は、教諭の研究会、研修会が多く、教諭は専門性を高めるために自己研鑽する時でもある。利用人数が多いと保育者の多くが預かり保育を担当することになるので、その点も課題の一つである。

第三者評価／学校関係者評価

- キリスト教保育の理念、子ども観を共有している教諭が担当し、人数的にも手厚い体制の預かり保育では、子どもたちとの信頼関係を基盤に、子どもたちの心情や興味関心、心身の変化等にも観察、理解の目が行き届き、子どもたちの内面の充実が持続できる保育内容を計画、実践している恵まれた保育の場として、保護者が安心して望んで託せる預かり保育となっており、高く評価できます。
しかしながら、この預かり体制は、通常保育において教材研究、環境構成の準備に努めている教諭の午後の仕事の時間配分、他の教諭との協力体制に創意工夫がなされているからこそ実践できると思われるため、どの園でもできる預かり保育ではなく、現在の教諭陣の保育力、チームワークの総合力として実現していると思われます。このことから、今後、人員数、配置への援助は、不可欠ではないでしょうか。
- 課題としている長期休暇中の預かり保育のあり方について、通常、保護者からの信頼感の高い幼稚園であることから、安全で、信頼できる園での遊び環境が、どの場所よりも求められていると思われませんが、改めて、休暇中の家庭での過ごし方など、保護者の意見を参考にしながら、園としての検討案を保護者と共有して、「預かり保育」のあり方、体制が模索できないものでしょうか。
- 保護者のライフスタイルの変化に柔軟に対応する姿勢が感じられます。長期休暇中の預かり保育と研究・修養をどう融合させていくのか。サービスとしての一面と同時に、新しい保育形態を展開するとの捉え方があっていいのかもしれない。「ぶどう組」の保育内容の向上が、聖和幼稚園の魅力をさらに高めていきます。
- 現状の説明と改善の具体的方策を読ませていただきましたが、すでに実行されていることおよびこれから実行すべきことの峻別が必要であるように感じます。大変な努力をされて、子育て支援をされんとしていることについては大いに評価します。
- ぶどう組の保育を充実させるために、保育室の物的環境を整え、担当教諭を増員するなど、目標達成にむけての努力が評価できます。

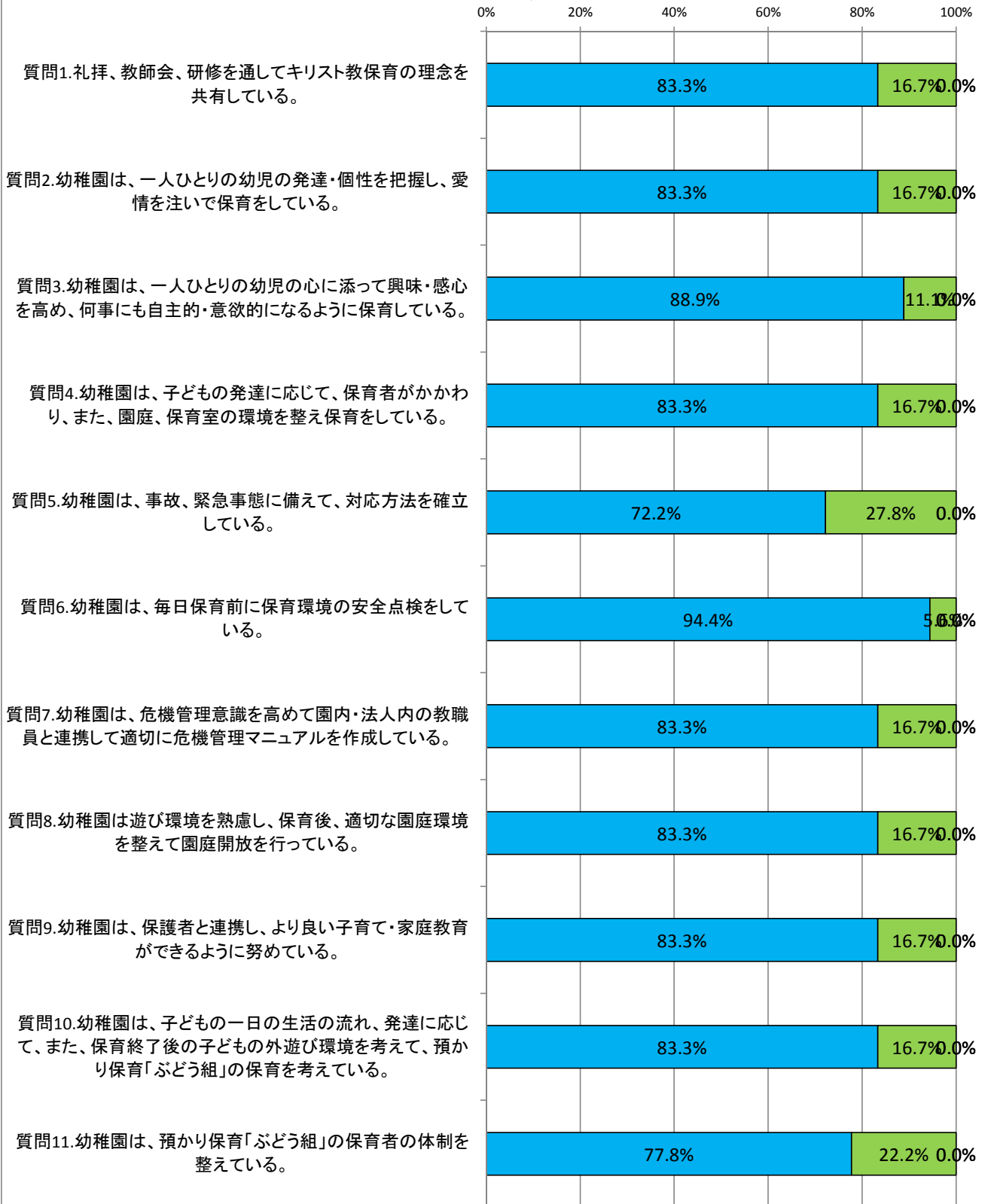
- 預かり保育における外遊びは園庭解放の子どもとの混合になると思われ
ますが、その際のぶどう組の子どもへの対応はどのようになされている
のでしょうか。
- 保護者にはニーズの高い預かり保育ですが、子どもの心身への影響や長
期休暇中の教諭の勤務体制等を考えて、よりよい今後のあり方を検討さ
れることが望まれます。

2013年度学校評価

2013年度 学校評価 実施項目一覧（聖和幼稚園）

大項目	小項目	目標	指標(教員用)	指標(保護者用)
幼稚園全般				1. 子どもは、幼稚園に行くのが楽しいと感じている。 2. 幼稚園の教育には満足している。
1. キリスト教主義教育 (継続)	キリスト教保育の理念の共有	教職員間でキリスト教保育の理念を共有する。	1. 礼拝、教師会、研修を通してキリスト教保育の理念を共有している。	3. 幼稚園はキリスト教保育の考え方、大切にしていることを礼拝、手紙、話等を通して保護者と共有している。
	キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践	一人ひとり幼児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする。	2. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。	4. 幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている。
2. 教育課程・指導 (継続)	各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助	幼児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する。	3. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の心に添って興味・感心を高め、何事にも自主的・意欲的になるように保育している。	5. 幼稚園は、子どもたちの意欲や主体性を育む保育をしている。
		環境(人的・物的)を通しての保育を実践する。	4. 幼稚園は、子どもの発達に応じて、保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整え保育をしている。	6. 幼稚園は、子どもの発達に応じて、保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整え保育をしている。
3. 安全管理	事故や緊急事態発生時の適切な対応	園に関係する事故や緊急事態に対応できる備えをする。	5. 幼稚園は、事故、緊急事態に備えて、対応方法を確立している。	7. 幼稚園は、事故や緊急事態に適切な対応ができるように、避難訓練を行い、また、日ごろから子どもたちが保育者の指示で行動できるようにしている。
	園内環境の安全点検	子どもたちの活動について把握し、その活動範囲の安全点検を確実に行う。	6. 幼稚園は、毎日保育前に保育環境の安全点検をしている。	8. 幼稚園は、子どもたちの安全を考えて遊具等の環境を整えている。
	教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成	幼稚園の危機管理マニュアルを、教職員、法人、専門機関と連携して作成する。	7. 幼稚園は、危機管理意識を高めて園内・法人内の教職員と連携して適切に危機管理マニュアルを作成している。	9. 法人・幼稚園は、危機管理意識を持ち、マニュアルをもって子どもたちの安全を守っている。
4. 子育て支援 (継続)	園庭開放	幼稚園児の遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。	8. 幼稚園は遊び環境を熟慮し、保育後、適切な園庭環境を整えて園庭開放を行っている。	10. 幼稚園は、子どもたちの遊び事情を考えて園庭開放を行っている。
	子育て・発達相談	子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。	9. 幼稚園は、保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努めている。	11. 幼稚園は、子どものこと、子育て、発達について相談ができる。
5. 預かり保育 (重点)				12. 預かり保育「ぶどう組」を利用したことがある。
	子どもの外遊び環境、保護者の実情による預かり保育の実施	預かり保育「ぶどう組」の保育内容を検討する。	10. 幼稚園は、子どもの一日の生活の流れ、発達に応じて、また、保育終了後の子どもの外遊び環境を考えて、預かり保育「ぶどう組」の保育を考えている。	13. 幼稚園は、保育終了後の子どもの外遊び環境、育ち、一日の生活の流れを考えて、預かり保育「ぶどう組」の保育をしている。
		預かり保育「ぶどう組」を担当する保育者の体制を整える。	11. 幼稚園は、預かり保育「ぶどう組」の保育者の体制を整えている。	14. 幼稚園は、預かり保育「ぶどう組」の保育者の体制を整えている。

2013年度 学校評価アンケート集計結果
(幼稚園・教員)



■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえば思う

■ 回答番号3: あまりそう思わない

■ 回答番号4: まったくそう思わない

2013年度 学校評価アンケート集計結果
(幼稚園・保護者)

